

都立第一商業高校 実践的ビジネス教育に力 卒業生に聞く一商の魅力

有料記事 高校思い出クリック～青春群像記～

2024年11月24日 7時00分



東京都立第一商業高校=同校提供 

【連載】高校思い出クリック～青春群像記～ [➔](#)

高校をシリーズで紹介する企画。今回は東京都立第一商業高校の1回目です。

創立以来100年以上にわたり、実践的なビジネス教育に力を入れてきた東京都立第一商業高校（一商）。卒業生たちは、学びを生かし、どのようなキャリアを築いてきたのか。造園家の小杉左岐さん（78）と、東京海上ミレア少額短期保険常勤監査役の吉田正子さん（63）に聞いた。


造園家・小杉左岐さん

植木屋の3代目ですが、高校生の頃は、継ぐことは考えていませんでした。ホンダの本田宗一郎さんやパナソニックの松下幸之助さんに憧れて、将来は商売をやりたいかったですね。だから、一商に行こうと。

一商では簿記の授業があります。3年間学んで、「数字を読むこと」ができるようになりました。社会に出てからも、数字は苦にならなかった。すごくありがたかったなと思います。

自由にさせてくれた先生



小杉左岐さん=2024年10月2日、東京都世田谷区、石平道典撮影 

高校生活は本当に楽しかったですね。みんなが受験勉強をするなか、私はのびのびと遊んでばかりいました。先生方も自由にさせてくれて、いろんなことにチャレンジする大切さを教えてくれました。先生には本当に恵まれました。

新聞部に入っていました。商社や金融機関などに勤めている先輩方を訪ねて、お話を聞き、活躍されている姿から多くのことを学びました。「どんな仕事でも、人より先に動くこと。そうすると目立つよ」とアドバイスをくれた先輩もいました。その言葉は、折々に思い出しています。

高校卒業後は損害保険会社に就職しました。高卒なので苦労はしましたが、数字を読めたことが仕事に生きました。結局、3年半で会社を辞め、植木屋になるのですが……。

世界へチャレンジ、一商が原点

バブルの好景気と崩壊を経験しました。植木職人のなり手が減り、もっと社会的地位を上げなければと考えると、技能五輪の世界一を目指すことにしました。2007年に国際大会の造園部門で金メダルを獲得し、世界各国から仕事が入るようになりました。いまは技術や語学力を磨いた職人を現地に送り、日本庭園を造っています。

それも、すべてチャレンジ精神からです。私は英語が話せませんが、それでも世界中の人たちと交流し、日本の庭園文化のすばらしさを伝え続けています。その原点は一商での学びにあります。


後輩のみなさんには、「どうしたらできるのか考えてみてください」と伝えたいですね。できない言い訳を考えるのではなく、チャレンジする。そして、世界に出て行ってほしいと思います。

略歴

こすぎ・さき 1946年生まれ。植木屋の3代目として、78年に小杉造園(本社・東京都世田谷区)を設立した。現在、代表取締役。国際的に活躍する造園家で、これまでアゼルバイジャン、バーレーン、ジョージアなどに日本庭園を造った。

東京海上ミレア少額保険常勤監査役・吉田正子さん



吉田正子さん=2024年10月2日、東京都渋谷区、石平道典撮影 

父親が園芸関係の仕事をしていたので、園芸高校をすすめられました。でも、これからは商業の時代だと思い、中学校の先生に相談すると「一商がいいよ」とすすめられました。

当時は女子生徒の数が多く、8クラス中5クラスが女子だけの「女子クラス」、3クラスが男女一緒のクラスでした。私は女子クラスで、のびのびと過ごしました。

熱心に学んだ簿記の授業

入学時に担任の吉田信佐(しんすけ)先生から「一生懸命勉強すれば、東京海上に推薦される」と聞き、目標にしました。特に頑張ったのが簿記の授業です。いろんな先生が企業経営の話などをしてくれて、世の中の動きも学べて、楽しかったですね。日商簿記検定を受けたいと言ったら、放課後に熱心に教えてくれる先生も。おかげで在学中に2級を取得できました。

文化祭の「一商祭」が思い出深いですね。実行委員だった3年生のとき、私たちの女子クラスが後夜祭を担当しました。舞台のやぐらを組んだり、キャンプファイアで盛り上がりたり。結束が強まり、卒業旅行は丹沢(神奈川県)にあった学校の寮にみんなで宿泊しました。輝かしい青春の思い出の一ページです。

就職活動は、吉田先生から「大丈夫だ」と背中を押してもらい、一般職で東京海上火災保険に入社しました。まだ女性が長く働くことが珍しかった時代です。仕事でしんどいことがあっても、先生から「3年は頑張りなさい」と励まされました。その言葉を何度も思い出してきました。

「何事にも興味を持って」

営業や人事、支社長などを経験し、女性が働き続けるための人事制度の改革にも取り組みました。一般職で入った私でも役員になることができたのは、「とにかく自分ができることをやろう」と心掛けてきたからだと思います。

その根底には、一商での学びがあります。のびのびと勉強し、やりたいと思ったことを実現させることができ、仲間や先生にも恵まれました。すべてがいまの私につながっています。在校生の皆さんも、いま取り組んでいることが必ず将来につながってくるので、何事にも興味を持って取り組んでほしいと思います。

略歴

よしだ・まさこ 1961年生まれ。80年に東京海上火災保険(現・東京海上日動火災保険)に入社。旅行業営業部長、千葉支店長などを経て、2022年に常務取締役役に就任。現在、東京海上ミレア少額短期保険常勤監査役、松屋社外取締役などを務める。

【都立第一商業高校】

東急東横線の代官山駅から徒歩8分、大使館や高級レストランが並ぶ旧山手通り沿いに立地。
1918(大正7)年に東京府立商業学校として現在の地に設立された。

普通科目のほかに、商業科目(ビジネス基礎、簿記、情報処理、ビジネスアイデアなど)を学ぶ。
簿記検定や情報処理検定、秘書検定など、さまざまな資格取得のための支援が充実。地元・渋谷
にスポットをあてた「渋谷学」の授業では、3年間を通して地域の課題を探究する。

◆創立 1918年

◆生徒数 574人(2024年10月31日現在)

◆進路 約75%が進学。このうち約55%が全商(全国商業高等学校協会)推薦や指定校推薦などの
入試形態を活用し、4年制大学に進む。約15%が省庁や金融機関、一般企業などに就職。

◆主な卒業生(敬称略) 三好徹(直木賞作家)、豊歳直之(パラグアイ大使)、水原清一(東京銀座
清月堂本店2代目当主)、山本恵造・山本徳治郎(山本海苔店社長)、中村隆英(東大名誉教授)、
番場嘉一郎(一橋大名誉教授・千葉商科大学長)、大川政三(一橋大名誉教授)、疋田桂一郎(新
聞記者)、金原亭馬の助(落語家)、野瀬四郎、鈴木文弥、越智正典(いずれもアナウンサー)

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により
保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication
without written permission.